

3 海外向け中央銀行決済インフラ & 対中央銀行接続ゲートウェイ

諸外国の中央銀行決済システム高度化を 実現するオフリングを開発

NTTデータは金融決済システムに掛かる国内外の豊富なノウハウを活用し、諸外国をターゲットとした中央銀行向けオフリングを開発した。加えて対中央銀行接続（以降中銀接続）を行う市中銀行に向けては金融メッセージ国際標準であるISO20022規格に準拠した中銀接続ゲートウェイを提供。海外での更なるビジネス拡大を目指す。

中央銀行、市中銀行の両面から 決済システムの高度化をサポート

NTTデータは中央銀行基幹系決済システム、および金融機関為替取引中継システムを国内外で構築、展開してきた。海外では決済インフラ基盤に必要最小限のパッケージソリューションを採用し、経済成長やIT化を踏まえた更改タイミングにおいて、金融政策、規制、市場ニーズに応じた高度化を計画している中央銀行も少なくない。こうした背景からNTTデータは豊富な実績とノウハウをオフリング化、決済インフラ更改を計画する海外諸国に展開

することで対象国の金融サービス、ひいては金融包摂の高度化にチャレンジする。

そして、市中銀行側では中央銀行の決済システム高度化に伴い最新の取引メッセージ(API)への対応が課さ

れることが通例である。近年ISO20022規格に準拠した取引メッセージによるシステム間接続がスタ



株式会社 NTT データ
第五金融事業本部
決済 IT サービス事業部
グローバル開発担当
課長代理 林 裕也氏



株式会社 NTT データ
第五金融事業本部
決済 IT サービス事業部
グローバル開発担当
課長代理 中出 恵太氏

ンダードとなりつつある状況下、市中銀行の接続負担を軽減すべく対中央銀行接続ゲートウェイ（以下、FIGW）を、アジアを中心に展開する目論見だ。

従来の中央銀行が提供する大口決済に加え、銀行やノンバンクが企業・個人向けに提供する小口多頻度決済を可能にするオールインワン決済オフリング

銀行間の資金決済、国債の振替決済、与信担保管理、といった従来の中央銀行が提供する典型的な機能（HVPS: high-value payment system）に加え、市中銀行やノンバンクの資

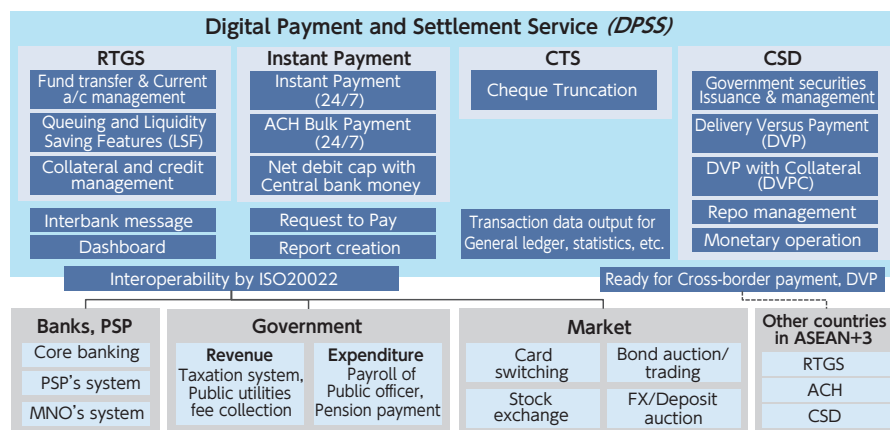


図1 中央銀行決済オフリングの機能構成イメージ

金移動業者のサービスに企業や個人が開設する顧客口座間の資金移動機能を提供する。これにより、送金先が、送金元とは異なる市中銀行、ノンバンクのサービスを利用している場合においても、企業や個人はその違いを意識することなく、スマートフォンなどのモバイルチャネルを用いて24時間いつでも送金が可能となる。

特に新興国では、地方において銀行が遠い、もしくは物理的に支店がない地域も多く、ノンバンクの資金移動業者の決済手段が選択される傾向にある。国民の銀行口座普及率が低い国において、様々な決済手段間で相互運用性が確保されることは、金融包摂の実現に不可欠である。

NTTデータのオフリングは、相手国の決済システムの成熟度に応じて世界最先端の資金決済、電子小切手、国債決済の仕組みをオールインワンで導入するだけでなく部分的に足りない機能を切り出して素早く導入する、といったことも可能だ。日本国内でバンキング領域をフルカバーし、アジアでも導入してきた実績を活かして、相手国の要件に応じて柔軟に対応できる。

「単なるソリューションの導入ではなく、コンサルティング、関連システム・ステークホルダーとの調整、現地法人との連携によるローカルでの維持・保守といった取り組みを通じて、相手国の人々にとって真に価値のあるものを追求することが我々の根幹にある価値基準。弊社では、これをお客様とのLong-term relationshipsと呼んでいる。これまでに培ったインターバンク決済の発展を通じた課題解決ノウハウを通

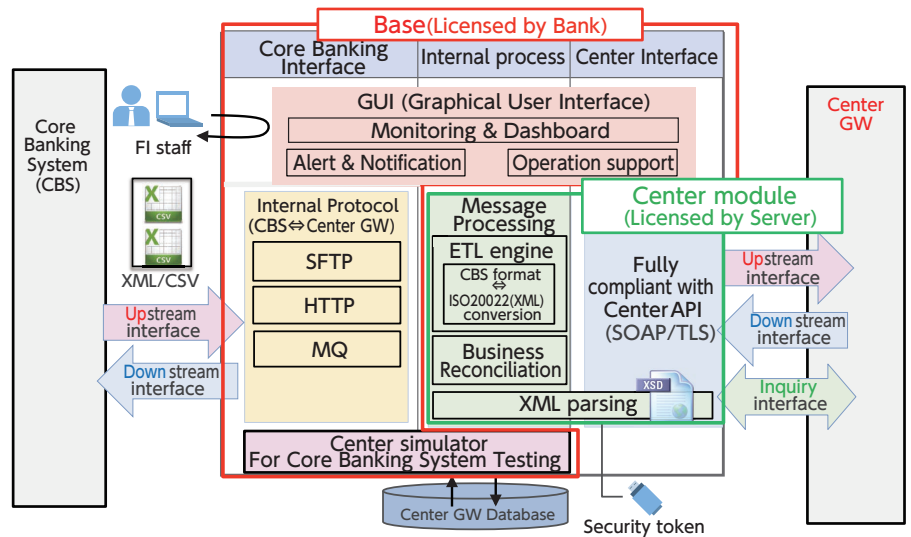


図2 FIGWの機能構成イメージ

じて、世界中の人々と共に社会貢献したい」(林氏)。なお同社では、ブロックチェーンや分散台帳技術を活用した銀行間決済の照合業務の商用化や、中銀デジタル通貨のソリューションをグローバル体制で検討している。エンドユーザーにとっての価値を徹底追及し、最新技術をフル活用したオフリングを展開していく予定だ。

市中銀行勘定系システムからの トランザクションデータをISO 20022規格メッセージへ変換、 中銀接続を実現するゲートウェ イソリューション (FIGW)

FIGW (Financial Institution GateWay) は、銀行ごとに異なる勘定系システム (別称コアバンキングシステム。以下、CBS) からのトランザクションデータをISO20022に準拠する形にメッセージ変換を行う。

「CBSから発生するトランザクションデータは銀行ごとにプロトコルも異なればファイルフォーマットも異なるため、本来であれば銀行ご

とにISO20022に準拠するための複雑な改修をCBSに対して行う必要がある。FIGWを導入いただくことで、市中銀行はFIGWが標準で複数用意しているプロトコル、ファイルフォーマットの組み合わせの中から最も都合の良い組み合わせを選択することができ、FIGW向けに簡易化したインターフェース仕様に従ってCBSの改修を行うだけで、ISO20022に準拠したトランザクションデータを容易にアウトプットすることが可能になる」(中出氏)。

また、CBSからアウトプットしたメッセージが、中銀システム、被仕向銀行のどこまで届いているかを管理する機能 (リコンサイル機能) も備えており、システム利用者は操作端末の画面上から、止まっている取引がないかを監視、管理することができ、円滑な取引を実現している。

NTTデータは今後、中銀システムのメッセージ標準をISO20022に準拠しようとしているアジア諸国の金融機関に向けてFIGWの販売を拡張していく計画だ。